

第百六十八話 ノモンハンの真実！

ノモンハン事件で日本軍は近代的なソ連軍に完敗し惨憺たる結果であり、日本はそれさえ隠蔽したと長らく言われてきた。然し、ソ連崩壊後の情報公開によって、日ソの損害が明らかになり、事実は巷間言われているのとはかなり違うと云うことが解ってきた。

1 ノモンハン事件の概要

1939（S14）年5月から同年9月にかけて、満州国とモンゴル人民共和国の間の国境線をめぐって発生した紛争をノモンハン事件と呼ぶ。満州国軍とモンゴル人民軍の衝突に端を発し、両国の後ろ盾となった大日本帝国陸軍とソビエト労農赤軍が戦闘を展開し、一連の日ソ国境紛争のなかでも最大規模の軍事衝突となった。

ノモンハン事件は、第一次（1939年5月～6月）と第二次（同年7月～9月）の二期に分かれる。第一次事件の勝敗は五分五分で、第二次事件はボロ負けと言われる。

2 ノモンハン事件の日本軍の人的損害

事件後に日本軍第6軍軍医部が作成した損害調査によれば、戦死7,696人、戦傷8,647人、行方不明1,024人であり、合計17364人である。終始戦った23師団の死傷率は68%と極めて高い。

参考までに 戦車・装甲車の損害：日本軍 36/92、ソ連軍
損失数約 400

航空機の損害：日本軍 179機 ソ連軍 251機



3 ソ連軍の人的損害

ソ連は、イデオロギー的な宣伝の為もあって、日本側の死傷者数を大きく膨らませる一方、自軍の人的損害を故意に小さく見せようとしてきた。

○ソ連側資料に見る日本軍の人的損害

1939（S14）年11月15日ソ連第一軍集団参謀部提出の報告書には、7、8月の戦闘だけで、44,768人としている。その後の資料ではそれが更に増えている。

○ソ連側資料に見るソ連軍の人的損害

1939年11月のジューコフ報告書では、死者・行方不明1,701人、戦傷7,583人の計9,284人となっている。

然しながら、ソ連崩壊後の2001年に公開された「20世紀の戦争におけるロシア・ソ連：統計的分析」によれば、死者・行方不明9,703人、戦傷15,952人の計25,655人である。ソ連軍の死傷率は約35%であり、相当に高いというべきだ。

尚、参考までに、停戦後10月17日に日本の参謀本部作戦課がまとめた報告書では、ソ連軍の死傷者は20,000人前後と捉えており、かなり正確だった。

3 評価

ソ連軍の人的損害は、日本軍のそれを上回っており、日本軍は、巷間言われているほど惨敗した訳ではなく、相当健闘したことが窺える。ノモンハン事件も見直される必要があるだろう。但し、戦争目的を実現できなかった日本の敗北であることに違いはなく、この戦闘で得られた貴重な教訓が活かされなかったのは残念だ。近代的な軍隊の洗礼を浴び、それを国軍建設に活かすには国力の問題も時間の問題も或いは面子の問題もあったのか？

4 ソ連軍のみならず、関係国の情報公開の促進を

日本は敗戦後関係書類を焼却しており、事実確認に支障を来している。ソ連は、ノモンハン事件に限らず、日本人抑留者や死亡者に関する情報の公開が遅れており、米国もどうも都合の悪い関係文書の公開を躊躇しているような気がしてならない。

* 戦いの正当な評価には、宣伝ではなく事実が明らかにされるべきだ。

（第百六十八話 了）